

製品名: Stat2 (リン酸化 Tyr690) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05478**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	113kDa

抗原情報

遺伝子名	STAT2
別名	STAT2; Signal transducer and activator of transcription 2; p113
遺伝子 ID	6773.0
SwissProt ID	P52630
免疫原	抗血清は、ヒト STAT2 の Tyr690 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 656-705

背景

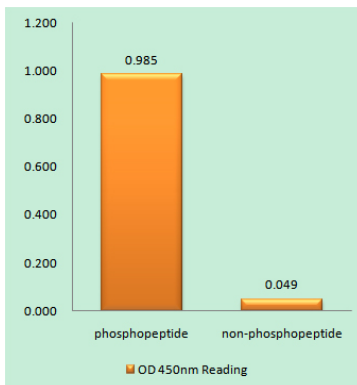
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、STAT タンパク質ファミリーのメンバーです。サイトカインや成長因子に応答し

て、STATファミリーのメンバーは受容体関連キナーゼによってリン酸化され、その後ホモ二量体またはヘテロ二量体を形成して細胞核に移行し、そこで転写活性化因子として作用します。インターフェロン（IFN）に応答して、このタンパク質はSTAT1およびIFN調節因子ファミリータンパク質 p48（ISGF3G）と複合体を形成し、その中で転写活性化因子として作用しますが、DNAに直接結合する能力はありません。転写アダプター P300/CBP（EP300/CREBBP）はこのタンパク質と特異的に相互作用することが示されており、アデノウイルスによるIFN- α 応答の阻害プロセスに関与していると考えられています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2010年3月]、機能: I型インターフェロン（IFN- α および IFN- β ）によるシグナル伝達を媒介するシグナル伝達因子および転写活性化因子。I型インターフェロンが細胞表面受容体に結合すると、Jak キナーゼ（TYK2 および JAK1）が活性化され、STAT1 および STAT2 のチロシンリン酸化が誘導される。リン酸化 STAT は二量体化し、ISGF3G/IRF-9 と会合して ISGF3 転写因子と呼ばれる複合体を形成し、核内に移行します。ISGF3 はインターフェロン刺激応答配列（ISRE）に結合し、インターフェロン刺激遺伝子の転写を活性化することで、細胞を抗ウイルス状態に誘導します。、PTM: IFN- α に応答してリン酸化されるチロシン。、類似性: 転写因子 STAT ファミリーに属します。、類似性: 1つのSH2ドメインを含みます。、細胞内局在: IFN- α/β による活性化により核に移行します。、サブユニット: 細胞質内で ISGF3G/IRF-9 と相互作用します。IFN- α/β 誘導リン酸化により STAT1 とヘテロ二量体を形成します。CRSP2 および CRSP6 と相互作用します。サルウイルス 5 タンパク質 V および狂犬病ウイルスリン酸化タンパク質と相互作用します。、

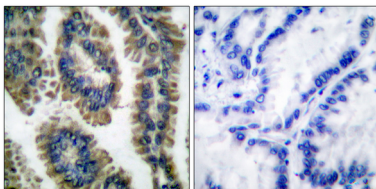
研究分野

ケモカイン;Jak_STAT;

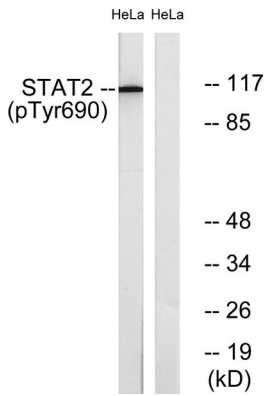
画像データ



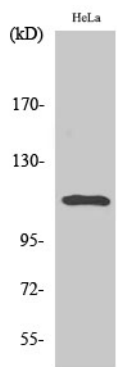
STAT2（リン酸化 Tyr690）抗体を用いたリン酸化ペプチド（リン酸化左）および非リン酸化ペプチド（リン酸化右）免疫原の酵素結合免疫吸着測定（リン酸化 ELISA）



STAT2（リン酸化 Tyr690）抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



IFN 2500U/ml 30分処理した HeLa 細胞ライセートの STAT2 (リン酸化 Tyr690) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



Phospho-Stat2 (Y690) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析